

夜間、釣り場に向け航行中、岩場に衝突し船長、釣り客が負傷

概要：本船は、船長(45 歳)が 1 人で乗り組み、釣り客 6 人を乗せ、釣り場に向け航行中、岩場に衝突し、釣り客 6 人及び船長が負傷した。(肋骨骨折、胸椎骨折等)

本船 (遊漁船)
 総トン数：7.3 トン
 L r × B × D：13.38m × 3.31m × 0.99m

天気晴れ
 南東の風約 2.0m/s
 視界良好

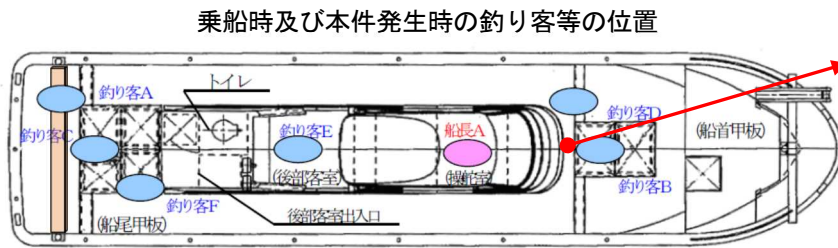
救命胴衣の着用状況
 船長：着用せず
 釣り客：1 人着用

出港前

船長は、第 1 便として 16 時ごろから 23 時ごろまで遊漁を行い、23 時 35 分ごろ帰港したが、釣果が思わしくなかったため第 2 便の釣り客には、何でも釣らせて釣果を得たいと思っていた

0 時 05 分ごろ

船長が 1 人で乗り組み、釣り客 6 人を乗せ出港し、10 ノットの速力で 025°となる北東方に向け、手動操舵により航行した



0 時 15 分ごろ

船長は、南下する入港船を避航するため、針路はそのまま約 15~16 ノットに増速して航行し、入港船が左舷後方を通過したことを確認後、左転して 325°としたが**常用コースを外れたまま**、同速力で航行を続けた

船長は、第 1 便の釣果が悪かったことから、漁場や釣り方の心配をしており、レーダー及び GPS プロッターを港内レンジから港外レンジへ切り換えるのを失念した

本船は、**船首作業灯を点灯**していたため、船首方の視野内の一部に**高輝度の明かり**が存在し、グレア(※)による見え方の減退を生じて**船首方が視認しにくい状況**となっていた

0 時 25 分ごろ

原針路、原速力のまま岩場に衝突した
 釣り客 6 人及び船長が負傷し、船首部を大破した

※視界に強烈な光が存在し、輝度差が生じることにより、視認性が低下する現象

再発防止に向けて (事故防止策)

- ・夜間航行の際、**船首方の見通しを確保し、航海計器を適切に使用して見張りを適切に行うこと。**
- ・GPS プロッターに**常用コースを設定している場合は、常用コースを航行すること。**
- ・自船のレーダーに**見張り警報機能を有する場合は、適切に使用すること。**
- ・乗船中は、**釣り客に救命胴衣を適切に着用させるとともに、自ら救命胴衣を着用して模範を示すよう努めること。**

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(平成 26(2014)年 3 月 28 日公表)
http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2014/MA2014-3-2_2013tk0025.pdf